

精神看護の基礎と展開

(公益財団) 松原病院

(医) 福井心のクリニック(AOSSA)

(医) 菜の花こころのクリニック (春江)

(公益社団) 福井被害者支援センター

嶺北認知症疾患医療センター

認知症の人と家族の会福井支部

松原六郎

目次

1. 精神科医療の現状
2. ストレス性疾患（適応障害,不安障害など）
3. 気分障害（うつ病など）
4. 統合失調症
5. 認知症
6. 依存,発達障害

精神科医療の現状

看護の基本は心のケア

精神医学の領域

- 精神科医療

生涯のうち約5人に1人は精神科に通院または入院

- 精神科治療分野

精神科診療,救急,往診,オンライン診療

P T S D,災害精神医学,リエゾン精神医学

特殊環境の精神医学（宇宙,移植のための隔離）

- 予防

産業精神医学,教育現場,家庭や地域

被害者支援（2次被害）,ミスの精神医学

- 支援 ジェンダー

- 司法精神医学

責任能力（是非善惡の判断能力,衝動制御能力）

医療観察法,弁護能力,成年後見制度

医療計画の5疾病6事業

医療計画には、地域の適切な医療機能を確保するために、以下の疾病と事業ごとにそれぞれ医療連携体制を構築することとなった。

5 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患
5 事業

①救急医療

②災害医療 被災地に災害発生初期のみならず持続的に支援。

③へき地医療

医師不足地域への支援し、ネットワークを活かして協力。

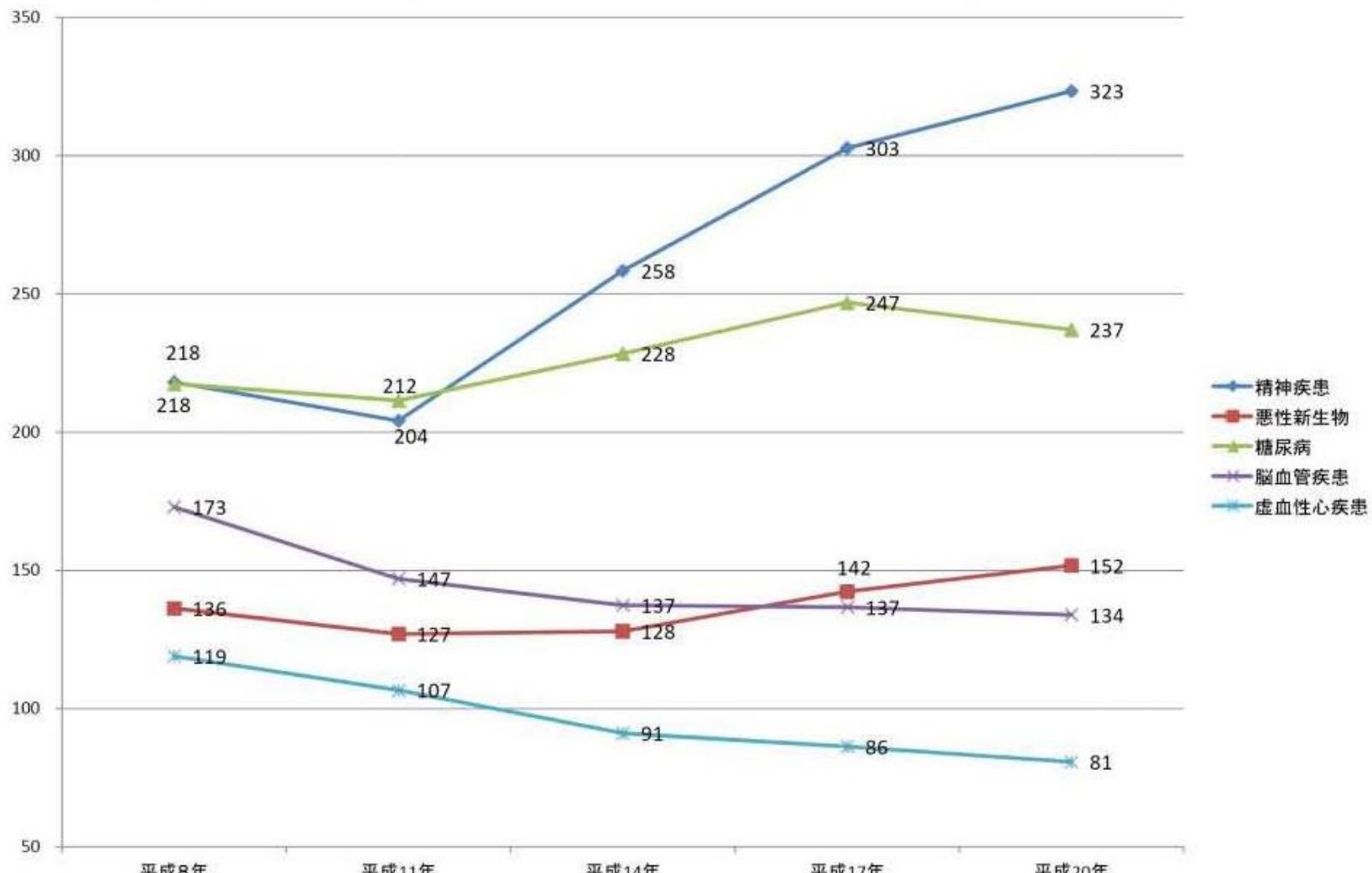
④周産期医療

分娩、ハイリスク分娩、母体又は新生児搬送受入数増加。

⑤小児医療 小児救急患者の受入数増加。

⑥新興感染症等対策（2024年度から追加）

傷病別の医療機関にかかるっている患者数の年次推移



※単位:万人

※出典:患者調査を基に作成

精神疾患の多さ

- 国民の約20%が生涯のうちに精神疾患を経験するという報告もある。『精神疾患の有病率等に関する大規模疫学調査研究』('16年)によると、精神障害の生涯有病率は、アルコール依存症が14・9%と最も高い。
- いずれかの気分障害は7・0%。階層別にみると、気分障害は女性の若年・中年層に、アルコール依存症は男性、若年者、結婚歴がない人に多くみられたという。

心理的知識が必要な理由

1. 適切な医療的対応ができる
救急処置,カウンセリング,環境調整
2. 科学的視点を持つ
対応する側に余裕が生まれる
3. 被害者のP T S D予防が可能
4. スタッフの心のケアのため

精神疾患の診断基準

ICD-10 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems)

WHO (世界保健機関) が作成する病気の分類表

10はその第10版

身体疾病を含むすべての疾患を分類

DSM-5 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders)

アメリカの精神医学会が出版している、

精神医学に特化した診断基準, 第5版

ICD-10における精神疾患の分類

F0 症状性を含む器質性精神障害

F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害

F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害

F3 気分〔感情〕障害

F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害

F7 精神遅滞（知的障害）

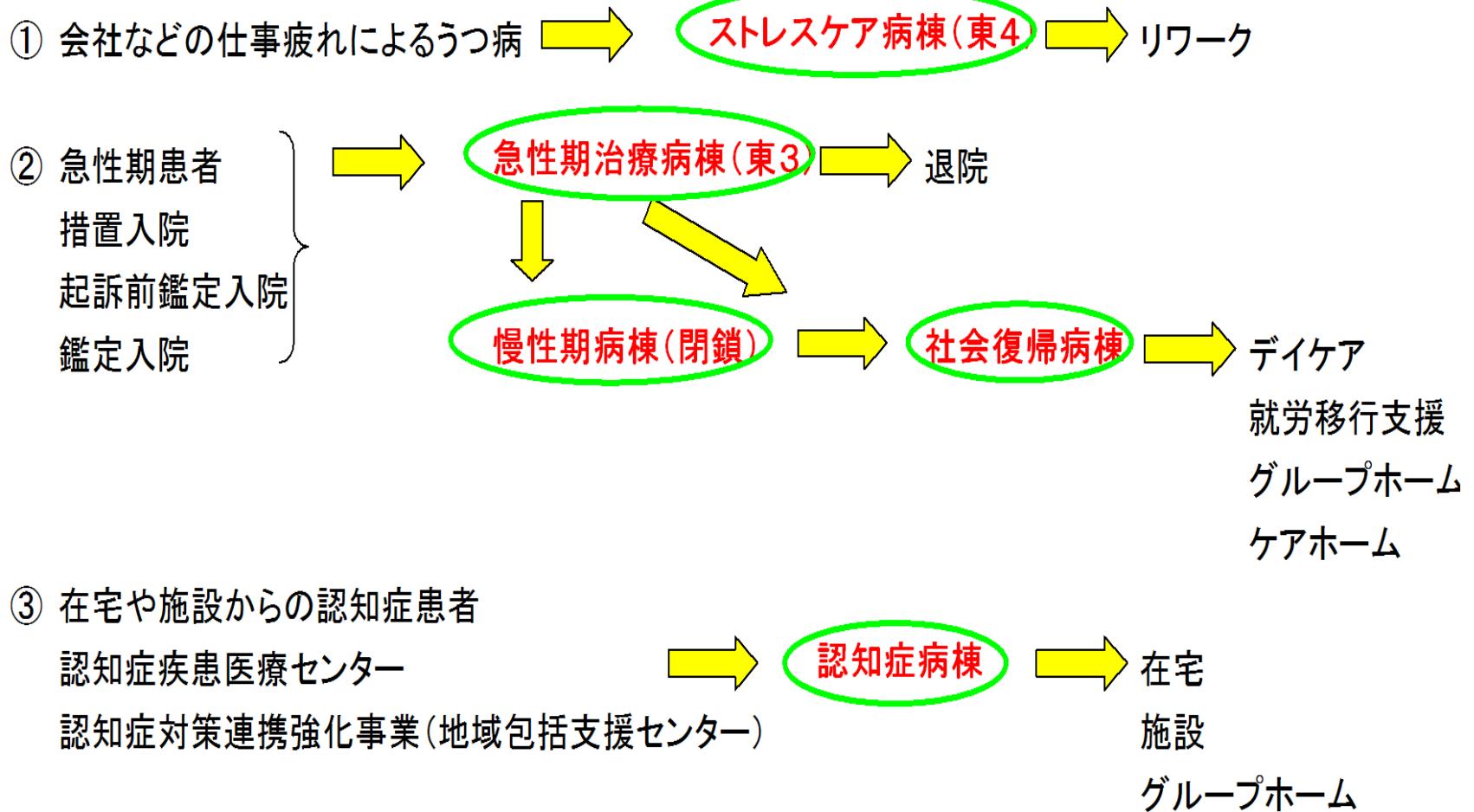
F8 心理的発達の障害

F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害

病院全景



病棟の概要



精神医学の最近のテーマ

1. 認知症医療 MCI
2. うつ病 職場（労災），若年，自殺，再発，周産期うつ病
3. 発達障害 自閉症スペクトラム障害，ADHD，教育分野
4. 薬物，アルコール乱用や依存
5. 災害 PTSD，犯罪被害者支援
6. リエゾン精神医学
7. 法律と精神疾患 成年後見制度，精神鑑定（司法），医療観察法
8. 精神障がい者の地域生活支援 精神科チーム医療，デイケア

精神医療のスタッフ

1. 医師 指定医,専門医(児童青年期,認知症,司法,脳波,他)
2. 看護師・保健師 専門看護師,認定看護師
3. 作業療法士・理学療法士
4. 精神保健福祉士
5. 公認心理師
6. 薬剤師
7. 栄養士
8. 介護福祉士,介護支援専門員(ケアマネージャー),ホームヘルパー
9. 臨床検査技師,放射線技師,医療秘書

精神疾患における入院形態

- 1, 任意入院
- 2, 医療保護入院
- 3, 措置入院
- 4, 応急入院
- 5, 鑑定入院
- 6, 医療観察法に基づく入院

まとめ

- ・多様化する現代社会の中で、精神疾患も多様化し、一般的の外来入院医療にとどまらず、アウトリーチ（往診や訪問看護、訪問リハビリなど）のニードが高まっている。
- ・医療だけでなく地域生活支援という福祉、介護との連携も重要なになってきている。
- ・触法行為、犯罪被害など法律の分野との密接な関係が際立ってきている（司法精神医学）。また、災害などの被害へのケアや、癌、難病、婦人科疾患など身体医学との連携も必要度が高まっている。（リエゾン精神医学）
- ・精神医学は医学分野の中で、最も早く多職種によるチーム医療が充実してきている分野である。